

事 業 報 告

活 動 名	日本技術士会東北本部岩手県支部令和4年度秋季講演会 ～シリーズ岩手を知る（第25回）～ 「微動アレイ探査による地域の地震ハザードの評価」 ～ 地震が起こる前に被害が起きそうな場所を予測する ～ (CPD 番号 -)
主 催	公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部
日 時	令和4年10月8日（土）15:00～16:30
場 所	エスポワールいわて（盛岡市中央通1-1-38）
参加人数 等	39名（会場29名（学生1名含む） WEB 配信視聴10名）
活 動 内 容	
<p>1. 講演内容</p> <p>【講師】 国立大学法人岩手大学理工学部システム創成工学科社会基盤・環境コース 准教授 山本 英和</p> <p>岩手大学の山本准教授を招き、地震被害を予測する微動アレイ探査を中心に講演した。講演に先立って小野寺支部長が挨拶し、8月の大雨や台風による県北部の被害や気候変動による自然災害の激甚化に触れ「自然災害に対する技術士の果たす役割が重要になってきている」と述べられた。</p> <p>山本准教授は、地震危険度予測に関する研究を軸に地盤増幅率（揺れやすさ）を評価するための地下構造探査法の開発を進めてきた。微動アレイ探査は自然現象や人間活動により発生した微動振動を多点同時観測（アレイ観測）による地下探査法であり、非破壊かつ震源を必要とせずに地盤増幅率を得ることが出来る手法である。国の地震被害予測に比べ緻密詳細な被害予測が可能で地域防災対策への貢献が期待されている。</p> <p>これまで、盛岡市内を中心に陸前高田市、久慈市、矢巾町を調査しており、本講演では2021年調査の矢巾町中心部の調査結果を詳細に紹介した。2003年宮城県沖地震の住民へのアンケート震度、全国地震動予測地図、本探査による地盤増幅率分布マップを示し、住民の体感と探査結果が正しい方向であると結論付け、盛岡市内も今後多くの地域での探査実施を試みたいと述べられた。最後の質疑応答では質疑者の矢巾町での地盤調査経験と照らし合わせたものがあり、地域防災対策における技術士の知見を深めるものとなった。 (文責 武田洋一)</p>	
	
小野寺支部長の挨拶	
	
講師の山本英和先生（岩手大准教授）	
	
質疑応答の様子	
	
受付（感染症対策検温実施）	